

3・1独立宣言100年の韓国を行く

細井明美

大統領は未来への希望を語った

2019年3月1日、ソウルの朝は美しい青空が広がっていた。独立宣言から100周年の今日、光化門を中心にしたソウルの街でどのようなイベントが繰り広げられるのか、私は期待に胸が膨らんだ。まさに街をあげてのフェスティバル。それなのに、あるうことか日本政府は次のような警告を発信した。

〈韓国への滞在・渡航を予定している方や滞在中の方は、最新の情報に注意し、デモ等が行なわれている場所には近づかない等慎重に行動し、無用のトラブルに巻き込まれることのないようご注意ください〉

メディアもこれに同調し、某テレビ番組では「きょう『反日』1万人集会 渡航者に注意喚起も」とテロップが流れ、「旅行で韓国、ソウルとかにお出かけの方もいらつしやると思います。きょうはちょっと心配。これを機に、また反日の気運が高まった」と日韓関係もややこしくなり

ますからねえ。なるべく穏やかにしてほしいと思いますが」と司会者がコメントした。反日の気運などソウルでは皆無。にもかかわらず日韓の対立を煽る愚劣さには呆れる。

私たちが光化門の近くに到着したのは午後1時過ぎ。すでに数万人の人々で賑わっていた。キリスト教団体のソウル広場のステージでは、数人の日本人クリスチャンが過去の植民地政策について土下座をして謝罪していた（この人たちのことはすでに前日ネットで報道済み）。観客は土下座をしている日本人に拍手で応えていたが、正直に言えば、私はこの行為に違和感を抱いた。

同じ頃、光化門のステージではムン・ジェイン大統領の記念演説が始まっていた。この演説については全文がメディアに掲載されているので、詳細にふれないが、彼は独立運動の主体が民衆で、この宣言を契機として共和国への道を歩んだとし、朝鮮半島の統一へ向けて平和な次の100年を築きあげようと国民全体に向けて「希望」を語った。



パレードに参加する民族衣装の市民たち（ソウル広場、写真提供：筆者）

日本では3・1運動100周年を反日だと揶揄している声を聞くが、そこにあるのは築きあげられた民衆の歴史を確認して次のステップへ進もうとしている韓国の姿だった。はつきり言おう。日本のことなど誰も眼中にない。

3・1宣言はアジアの平和を訴える

では100年前のこの日に何があったのか。3・1独立宣言に先立つ1919年2月8日、東京で朝鮮半島からの留学生たち11人による2・8独立宣言が発表され

た（在日本韓国YMCAにその資料があるから興味のある方は訪れることをお勧めする）。そこには「日本が1895年に韓国の独立を承認しながらも、日露戦争の講和会議では同盟国である韓国の参加を許さず、優越した兵力を持って韓国の独立を保全するという旧約に違反した」と日本の不正義を批判し、「日本に合併された韓国は、これに抗すれば東洋平和を乱す禍根となるであろう。わが民族は、正当な方法によってわが民族の自由を追求する」と訴えた。ここに今も昔も朝鮮半島を自らの利益のために利用する日本の姿が見えはしまいか。

「東洋平和」を基調とした宣言は、ソウルでの3・1独立宣言にも影響を与える。天道教、キリスト教、仏教の宗教者たち33人は独立宣言を創案し署名するが、日本との衝突を避けるために泰和館で朗読して終わる。しかし宣言文を持っていった一人の学生が数千人も集まったパゴタ公園でこれを朗読し、独立万歳を叫び行進を始めたところから3・1独立運動が始まった。

なつて熱狂的に『独立万歳』を叫ぶ。そして午後三時頃にはみなぎり寄せてくる潮のように全京城の市街の何処へ行っても『朝鮮独立万歳』の声と熱狂した市民の顔、顔であった。最初は学生と青年たちが先頭に立って居た。しかし何時の間にか労働者や都市の小市民たちが隊列に加わっている。60を過ぎたと思われる老人が示威の行列へ飛びこんで来て若い人達と腕を組む。お婆さんが玄関から跣足で飛び出してきては金切り声をあげ咽が裂けんばかり『大韓独立万歳』と叫ぶ（李千秋「当時の一中学生の記録」『朝鮮新聞』1959.3.1）

独立運動は大人だけでなく子どもたちにも浸透していく。

（当局は、学童たちの登校拒否にはことのほか動揺した。ある小学校で、卒業式には登校して卒業証書を受けとってもらいたいと少年たちに懇願した。（中略）多数の役人や著名な日本人の来賓を迎えて卒業式がはじまった。貴重な卒業証書がひとりひとりに手渡された。そのあと12・13歳のかわいい首席の少年が前に出てきて、恩師や関係者にたいする感謝の辞をのべた。（中略）来賓たちはご満悦であった。いよいよ最後になった。『これだけはいわせていただきます』と、その少年はいった。かれの声の調子は変わっていた。ぐっと姿勢を正した

とき、かれの目には決意のほどがうかがえた。かれはいま自分の口から飛びだそうとしている叫びが、この数日間で多くの人びとに死をもたらしたということをわきまえていた。『これだけはお許しねがいます』と、かれは服のなかに手をつ突つ込むと朝鮮国旗を取り出したのである。そんなものを持っているだけで罰せられることであった。旗をふりながら、かれは叫び出した。『祖国をかえせ。朝鮮に永遠の栄えあれ。万歳！』。少年たちはみんな席を飛びだし、めいめい自分の上衣から旗をひっぱりだして、それをふりながら口ぐちに叫んだ、『万歳！万歳！万歳！』。かれらはいせつな卒業証書を、恐れをなした来賓たちの目の前でずたずたに引きさき、地面にたたきつけてむらがり出ていった。（F・A・マッケンジー『義兵運動から三一独立運動へ——朝鮮の自由のための闘い——』）

独立運動は朝鮮半島のみならず豆満江を越えて満州に住む朝鮮族にも影響を与えた。この地域は間島と呼ばれ1870年代の二度の大飢饉を逃れるために移り住んだ人々と、1910年の日韓併合を拒否して活動の拠点を中国本土に求めた人々とが住んでいた。この地域とロシア沿海地方に移り住んだ朝鮮民族はおよそ100万人にのぼるといわれる。

朝鮮民族の独立を志向した者たちは独立運動の準備を進めていたが、3月7日に朝鮮で起きた3・1独立運動の知らせを聞き、急遽3月13日に「朝鮮独立宣言書発表祝賀会」を行なうことを決める。この集まりを知った張作霖は日本の迷惑を忖度して、独立運動を阻止するために強硬な措置を取るよう指示した。13日未明から軍の歩哨を立て、会場へ行く道路をすべて封鎖したが、それでも正午には2万人あまりが集結した。

彼らは「独立宣言文」を朗読すると「万歳の歓声をあげ日本総領事館に向かってデモ行進を始めた。しかし彼らを待っていたのは張作霖の軍隊だった。デモ隊は軍隊の一斉射撃をあびて、搬送され亡くなった人も



独立運動が展開された地域
 (『朝鮮共産主義運動史 1918～1948』より)

含めて19人が死亡(内12人が即死)、40人が負傷、300人あまりが逮捕された。その後、間島における非暴力の反日運動は武装闘争へと転換していく。

この独立運動の万歳デモは約2ヵ月間朝鮮全土で吹き荒れ、220郡市のうち211郡市が決起し、集会回数1542回、当時の人口の10%にあたる202万人が参加した。民衆蜂起ともいえるこの独立運動に驚いた日本政府は大弾圧を加える。その結果、7509人が殺害され、

1万5961人が負傷し、4万6498人が逮捕された。多くの惨劇が繰り返されたが、後世まで語り伝えられたのは4月15日の堤岩里教会の虐殺だ。日本軍は子どもを含めた住民29人を教会内に閉じ込めて一斉に射撃し建物を焼き払った。その後、3・1運動への弾圧に国際的非難を浴びた日本政府は、武力だけでは統治できないことを知り懐柔策に変更。民族独立運動の一部を容認し、運動を分断・弱体化させていく。

彼らは「共和制」を選んだ

日本政府は3月1日のムン・ジェイン大統領が演説で述べた犠牲者の数を「学術的に確立された数字ではない」と韓国側に懸念を示したと報道されている。しかし歴史的事実を無視していいわけがない。

3月2日、南北朝鮮の境界線にあるイムジン河へ行く。朝鮮戦争で破壊された汽車と橋桁が残っている。境界線を境に南北2キロの緩衝地帯があり、農民たちが畑を耕している。昨年の会談以来地雷撤去も進み、遺骨収集が行なわれ、少しずつ軍事的緊張がほぐれつつある。「開城まで21キロ」とある案内板をみて朝鮮半島の統一を願わずにはいられなかった。

話を元に戻そう。3・1運動の素晴らしき点は、人々が旧政権(李王朝)を復活させるのではなく民衆の自立を通じて新しい政体を創ろうとしたことだ。主権が我々民衆にあるということを彼らは自覚して行動した。つまり「共和制」を自覚して選んだ。その自覚が今日のロウソク革命を生んだのだろう。「国民主権」と言いながら天皇を「象徴」として崇める日本人とは、民主主義に対する感覚が全く異なっているように感じる。日本が「象徴」を排し、この地に住むすべての人々の権利が尊重・保障される日はいつになったら来るのだろうか。

(ほそい・あけみ／本誌編集委員)

*参考文献・『朝鮮近代史の講義ノート』(藤永社／大阪産業大学)、『朝鮮共産主義運動史1918～1948』(徐大爾著・金進訳、コリア評論社、1970年)